

令和7年度第6回「知事と一緒に生き活きトーク」発言要旨

1 テーマ：若者や女性に選ばれるおかやま

2 日時：令和7年10月22日（水）16:00～17:20

3 場所：都道府県会館15階談話室（東京都千代田区平河町2-6-3）

4 参加者：岡山県出身の若手社会人及び大学生 5名

5 知事挨拶

東京一極集中がずっと続いている。首都圏に人が集まって、その比率が今でも上がり続けている。このことについて、首都圏において活躍されている皆さんはどう感じているのか。また、若者や女性に選ばれるために、岡山県庁や岡山県内の会社や団体が取り組むべきこと等について提案があればお聞きしたい。

6 発言内容等

【自己紹介】

- ・社会人1年目。会社では企業等のスタートアップ支援を行っている。大学時代はおかやま愛好会で活動していた。語りだすと止まらないくらい岡山愛が強い。
- ・社会人1年目。大学は大阪だったが、岡山が好きで新幹線で通学していた。岡山を離れたくはなかったが、事情により今春から上京している。現在、岡山の高校生や大学生が自分の夢を実現するための、アクセラレーションプログラムの監修をしており、定期的に岡山に帰り、高校生・大学生の起業の支援等を行っている。
- ・大学4年生。高校まで岡山で過ごし、教育行政を学ぶため上京した。卒業論文では、都市公園の教育的利用や、子どもの活動・子育てへの利活用について研究している。
- ・大学3年生。広島県生まれだが、幼少期から高校卒業まで岡山で過ごし、大学進学で上京した。大学では「おかやま愛好会」で活動している。地方と東京の違いを感じつつ、将来は地方活性化と地域創生に関わる仕事を志望している。本日は就活生の立場として参加している。
- ・大学2年生。大学では政策立案・自治体への提案を行っている。岡山で18年間を過ごし、大学進学を期に東京に来たが、当初はかなり心細かった。

【課題、意見等】

（受皿等の整備）

- ・県内に若い世代の受皿を増やし、県外で力を付けた人が地域に入りこみやすいよう、マルシェやスポーツ、ボランティアなど、ハードルの低い「複数の入口」を整備してはどうか。
- ・進学・就職等で5～6年東京で過ごした「外物（そともの）」が、地域の事情を理解しないままいきなり起業等をしようとすると、地域側も受け入れ難い場合が多い。
- ・帰郷者等が地域ニーズに合った活動ができるよう、地域とのマッチングや「慣れ期間」を設けるような仕組みづくりが大切だと考える。
- ・地域で「自己肯定感」を得られる機会（自分にしかできない仕事・役割）を作ることが

定着につながると考える。

（A I 関連人材育成、リモートワークの活用、ワーケーション・リモート拠点の整備等）

- ・ A I の取組は都市部では活発だが、岡山県内では A I 等の最先端分野の選択肢が少なく、人材流出の原因となっている。自分も県外に出るしかなかった。
- ・ 岡山での A I 人材育成を進め、「岡山でも A I を学べる、仕事ができる」という意識付けが重要だ。
- ・ ベンチャーなどの小規模企業誘致・育成は大切である。学生の間では大企業の A I 系というより、ベンチャーの A I 系企業への就職志向が高く、岡山にそうした企業が増えれば、首都圏の学生の有力な選択肢になり得る。
- ・ ベンチャー志向や暮らしを重視する層は岡山に残り得ると考える。
- ・ リモートワークやワーケーションを活用し、東京の仕事を続けながら岡山に住む選択肢を拡充すべきではないか。柔軟な働き方で、岡山に住み続ける人を増やしてはどうか。
- ・ 副業やパートタイムで地域に関わる仕組みも有効だ。
- ・ 古民家オフィス等の魅力的な拠点やワーケーション・リモートワークの拠点の整備が重要であり、岡山の魅力を凝縮した拠点（例：観光地と連動したオフィス）を作るのも良いと思う。

（県内企業に関する情報発信、高校生と地元企業との連携）

- ・ 首都圏の大学新卒の就職活動では、都市部の企業情報が優勢で、岡山県内企業の情報があまり入ってこなかった。
- ・ 岡山には良い企業が多いが、企業情報が伝わらないまま就職活動が始まると、東京での企業説明会が中心となり、岡山に戻る選択肢が失われる。
- ・ 普通科の高校生は大阪や東京の大学に進学すると、地域を学習しないまま高校を卒業し、地元への理解や愛着が育ちにくい傾向がある。
- ・ 高校段階で地元企業との連携やインターンを増やすべきだと思う。

（Uターンに対する負のイメージの払拭）

- ・ 岡山から東京の大学に進学すると、岡山に戻るのは「もったいない」という負のイメージが付きまとう風潮がある。
- ・ 岡山での活躍が、日本や社会のためになるというような、ポジティブに捉えられるような P R が大事だと思う。

7 知事まとめ

若者が地域に入り込むための受皿整備をはじめ、A I 関連人材育成、リモートワークの活用、ワーケーション・リモート拠点の整備、Uターンのイメージ改善等、多くの有益なご意見をいただいた。これらのご意見を踏まえ、引き続き、若者や女性に選ばれる岡山を目指して県政を推進する。みなさんは若いうちからしっかりとした考えを持っているので、有意義な人生を過ごすと確信しており、今後も何かの形で岡山に関わってくれることを期待している。